

表7.3 時間空間的に見た総所得(労働と資本)の格差

総所得(労働+資本)に占める 各グループの比率	低格差 (≈ 1970-80年代 スカンジナビア)	中格差 (≈ 2010年 ヨーロッパ)	高格差 (≈ 2010年 米国)	超高格差 (≈ 2030年 米国?)
トップ10% (「上流階級」)	25%	35%	50%	60%
うちトップ1% (「支配階級」)	7%	10%	20%	25%
うち残り9% (「富裕階級」)	18%	25%	30%	35%
中間40% (「中流階級」)	45%	40%	30%	25%
底辺50% (「下流階級」)	30%	25%	20%	15%
対応するジニ係数(合成格差指 数)	0.26	0.36	0.49	0.58

労働所得格差が比較的低い社会(1970年代、1980年代のスカンジナビア諸国など)では、もっとも所得の多い上位10%が総所得の20%を稼ぎ、下位50%が約30%を稼いでいる。これに対応するジニ係数は0.26。オンラインの専門補遺を参照。